



外国文献紹介

未破裂動脈瘤の術後患者の拡散強調像にみられる穿通枝領域脳梗塞の総合的分析

Matsukawa H et al : Comprehensive analysis of perforator territory infarction on post-operative diffusion-weighted imaging in patients with surgically treated unruptured intracranial saccular aneurysms. J Neurosurg 132 : 1088-1095, 2019

筆者らは、未破裂動脈瘤で手術を実施した患者 848 例（1,047 病変）に対して後ろ向き調査を行い、術後の穿通枝領域脳梗塞（PTI）について検討した。診断には術後に撮影された拡散強調像を用いた。転帰に関しては、術後 12 カ月後にランキンスケールスコアで評価した。その結果、46 例（56 病変）に PTI がみられたが、その中の 43 病変には直接的な穿通枝の損傷や閉塞はみられなかった。多変量解析により、スタチン使用、動脈瘤の存在部位、瘤の大きさ、運動誘発電位モニタリングが PTI と関連性があることがわかった。そして、未破裂動脈瘤の手術を行う際、特に危険因子が存在する場合には、一層注意を払う必要があると述べている。

瀬戸一彦